

母は強し!

子育記

「金銭感覚の教え」から「労働意欲の引出し」まで

明石 洋子 (川崎市在住)

◎徹之は、今…

徹之(中学2年生)は「8月12日から株式会社新工で働きます」と言って喜んでいる。その理由は、1日働いたら私が徹之に2,000円払うことにしたからだ(職場実習なので会社からは出ない)。

徹之は8日間で16,000円もらえるのを楽しみにしている。そのお金の使途もう決めて、「松尾美保さん(普通級のクラスメート)と井上佳子さん(ひまわり父母の会の専従職員)にビキニの水着を買って、残りは来年の北海道旅行の為に貯金します」と言っている。井上さんに会うたびに、「花もようのビキニの水着、買います。62年、夏は、湘南に海水浴に行きます」と約束して、井上



さんを喜ばせ(?)ている。9時から5時までの労働も、来年の湘南のデートを生きがいがんばるのではないかしら…。

◎金銭感覚はこんな方法で身につけさせた
就労する意欲は、「仕事を通して人に認められ

たという実感」と「賃金」だと思う。前者の方は徹之には無理のようだから(将来、実感もてるようになったら最高!)せめて後者、お金の大切さだけは教えようと思って、幼い時から心がけてきた。

お店の物を手あたりしだい食べたり飲んだり持ってきたりする時期、いつもついていなければならなかった。買い物にも連れていき、徹之の「食べるもの・着るもの・欲しいもの」を本人がお金と交換することをパターン学習。最初はお金の意味がわからないから、捨てたり破いたり…。そのうち、「品物はお金と交換するもの」とわかり出ししてきた。

次は、お金を持たせて一人で買う訓練。地域のお店の方に協力してもらった。徹之はいろんな所で物を盗んだ(?)から、どのお店とも顔なじみ。最初叱られたお店が、皆協力してくれるお店となった。もう徹之は品物をとらない。ちゃんとお金と引き換える。それも、協力店のおかげで、自分で計算もして…。自分の欲しいものが手に入ると、とても熱心になるものだ。

おつりの計算もできるようになり、100円より200円の方がいいと、価値の高低もわかってきた。私に「100円ちょうだい」と言うので、「パパからもらいなさい」と言うと、主人には「200円ちょうだい」と言っている。おばあちゃんには、それが「500円ちょうだい」にかわる。これは、お金の価値判断と徹之への甘さの関係がわかった証拠。

◎労働の報酬としてのお金を認知させる方法
こうして、お金はとても大切にすようになっ

た。ところが、品物をとらなくなったかわりに、お金をとるようになった（5年生頃）。家族の財布や弟の大切な小使い。それに、近所やクラスメートのお家や学校でも…。私は地域の人に、「今徹之はお金が自分のほしいものと交換できることを覚えただけで、そのお金がどうすれば手に入るかが学習できていない。しばらくはお金を盗むので、お金の管理をよろしく」と、お願いしてまわった。学校にも、「職員室の机の中に小銭を入れておかないでください」と、先生方にもお願いした。徹之には、「お金を盗むとドロボウ！ドロボウは刑務所！刑務所に入るとママに会えない！徹ちゃんの好きなトイレ探検もできない！」とそのたびごとに言い、罰を与えた。「徹之の使うお金は徹之の財布の中から」と徹底して教えたが、徹之はお金を欲しがった。

そこで、次のステップとして、“労働の報酬としてお金をもらえる”ことを教えようと思った。それまでに、徹之には「将来自立する為に必要な家事はさせよう」と思って、風呂掃除や床の拭き掃除・ガラス磨き・食事の簡単な準備と後かたづけぐらいは、私と一緒にやってきた。

水・大好き人間で、幼児期から、水たまりやよその水道で水をピシャピシャやって喜んでいる固執性があった。特に、よその水道の水を出しっぱなしにしたりして迷惑をかけたりした（そのお宅には取り付け栓に変更してもらった）。本当に一日中水あそびばかりする子だったから、この固執性をプラス面に発想をかえて、生活力につなげることができないかと考え、風呂掃除やトイレ掃除をさせることを思いついた。私がするより数倍の時間と水・洗剤とを必要とした。遊びながらの学習だから、掃除したのか、ちらかしたのかかわからない状況だが、水への固執性が生活に結びつき、完璧にできる今、我が家ではお金に交換できる技術までになっている。

バスピカやクレンザー、カビキラーと洗剤も用途によって使いわけ、スノコの裏やコンクリートの床までピカピカ…。今考えると、そうなるのに

10年かかっている。当初は水道代と洗剤代がバカにならない金額だったし、また、トイレをつまらせたり、洗剤を丸ごと使ってしまったりもした。県立病院では、ゾウキンか何かを流してしまった為、水びたしにし、私がおおいに叱られた。今思うと、ずいぶん昔の話のようだ。

一つ一つが学習となって（悪い事とはきちんと区別して）積み上げてきた。

今、徹之は一週間、風呂とトイレと窓ガラスの掃除をして、週末に1,000円をもらっている。労働の賃金とした為、他にお金はやっていない。先日祖父母が来た時、徹之に3,000円を渡したら、2,000円は私にくれて、1,000円は自分の財布に入れて、それから、「お風呂の掃除をします」と、サッと風呂場へ…。皆、大笑い！その後、“労働の賃金”とは別に、“おこづかい”というお金を得られるパターンを上げた。今、9,000円のおこづかいを持っている。

週末は、全財産とバスの回数券・オレンジカード・テレホンカード一式を持って、日帰り旅行。去年の今頃は、たとえ10分でもバスに1人で乗ることは考えられなかった。本当に成長したと思う。

◎おわりに

一つ一つの学習の積み重ねがあって、初めて大胆な行動がとれる。ちょうど今徹之は行動する時が来たと思い、少々心配しながらも、本人が自分の力で外の世界を駆けつつあるのを、親として喜んでいる。

